

## リーダーシップ方式の流れ

**1 時限 導入・講義・資料の理解** 10:00-10:20 (20分) 2号館 803教室

▶ 講義 (約10分)

・ A4白紙用紙にメモ可能

**2 時限 個人ワーク①** 10:20-10:40 (20分) 2号館 803教室

▶ ジャーナルを読み、講義内容を踏まえて、各自出願時に提出した小論文の内容を3時限のグループワークにおいて、3分以内で発表できるように再構成する。

・ A3用紙、A4用紙、赤・黒マーカーは使用可能

**休憩①** 10:40-11:00 (20分) 教室移動含む

**3 時限 グループワーク** 11:00-12:00 (60分) 2号館 804・805・806・807教室  
(グループ毎に分かれて実施)

▶ 2時限の個人ワークで準備した内容を用いて、個人発表、質問、フィードバックを行い、続いてディスカッションのグループワークを行う。

1. 個人発表 (3分)、グループメンバーからの質問とフィードバック (5分) 計8分/1人

2. 全員が1.を終了後、グループディスカッション9分/3人グループ(4人グループの場合は12分)

**休憩②** 12:00-12:20 (20分) 教室移動含む

**4 時限 個人ワーク②** 12:20-13:10 (50分) 2号館 803教室

▶ 3時限のグループワーク時に観察したことや気づいたことを含めて以下の2つの設問についてレポートを書く。

設問1. 3時限のグループワークにおいて他のメンバーが行った質問やフィードバックでよいと思ったものを SBIのフォーマット で書いてください。(3つまで)

S: どのような場面で (Situation)

B: どのような行動が (Behavior)

I: グループの学びにどのようなよいインパクトを与えたか (Impact)

設問2. 本日の3時限のグループワークを通じて、あなたが実践し、グループメンバーとともに体験し、観察したリーダーシップ行動について、1時限、2時限の学びを踏まえて、具体的に書いてください。難しかった点、次回行う場合の改善点も記載してください。(800字以内)

解散

以上

# 2026年度 共立女子大学 総合型選抜共立リーダーシップ方式 試験問題

No. 1

No. 2

科目	学部	学科
個人ワーク①	ビジネス学部	ビジネス学科

## 1. 参加者全員がリーダーシップを発揮する機会を持っている

こうした時代の流れの中で登場したのが、この本のテーマである「権限によらないリーダーシップ」です。つまり、従来型のように特定の人が権限のあるリーダーとなって、グループを引っ張っていくのではなく、そこに参加する一人ひとりが、権限を持たないままリーダーシップを発揮していくという形です。

従って、チームを引っ張っていく人はつねに同じではなく、「このときはAさん、このときはBさん」という具合に交代していきます。つまり、リーダーが流動的に代わっていくのです。

となると、そこに参加するメンバーは誰もがリーダーシップを発揮する機会があるわけですから、自ずとそこでの行動は自律的・主体的なものになります。グループが掲げる目標を達成するために、自分には何ができるかを自覚し、実際に行動していく。単に命令に従って行動するのではなく、積極的にそのグループに関わり、目標達成に何が必要かを自律的・主体的に考え、動いていくのです。

このように、参加するメンバー全員が自律的・主体的であれば、自ずと世の中の変化に対してすばやく対応できるグループになっていきます。なぜなら、従来型のように権限やカリスマ性を持つ固定化したリーダーが変化に気づくのを待つのではなく、気づいた人が、たとえその人に権限がなくても、グループが変化に対応できるように促していくことが可能だからです。

気づいた人がまず考えて行動する。そうしたことがしやすく、また起こしやすいグループであれば、変化にも即座に対応していけるのです。

## 2. 「権限」がないからこそ、態度やスキルが重要になる

権限者によるリーダーシップであれば、リーダーに権限があるがゆえに、まわりの人たちは「この人には従わなくてはならない」という心理が働きやすくなります。また、従わないと罰を受ける場合もありますから、なおさら従わざるを得ないという面もあるでしょう。

一方、権限によらないリーダーシップの場合、権限がないので、まわりの人たちには従う義務が発生しません。そのため、「なんで、あなたの言うことをきかなくてはならないの?」と思われてしまう可能性が多々あります。

そうなるしまえば、目標に向かってお互いに影響し合って、結果を出していくということが、そもそも不可能になってしまいます。みんながバラバラの方向を向き、自分勝手な行動をとってしまうようになってしまっただけでは、グループは混乱してしまうばかりで、リーダーシップがまったく機能していない、「何人かの人が単に居合わせているだけの状態」になってしまいます。

そうした事態を生じさせないようにするためにも現在、さまざまな学者などによって研究され、高校や大学などの教育現場、さらには企業の研修等で実施されている権限によらないリーダーシップを学ぶ必要

があります。それは、従来のように、一握りの、グループのトップに立つべき人が学ぶ「帝王学」としてのリーダーシップではありません。一人ひとりが、社会で生きる基本スキルとして身につけておくべきリーダーシップです。

## 3. フィードバック

### フィードバックとは

フィードバックとは、ある人が行った発言や行動に対して、「ここがよかった」「あそこは、こうするともっとよかったのでは」など、まわりがどう感じたのか、どう見たのかなどを伝えていくことです。それによってリーダーシップ三要素それぞれが他者から見ても発揮できている状況にもっていきます。

### 発するときには、「S・B・I」の三つを盛り込む

具体的なフィードバックのやり方を見ていきましょう。フィードバックをお互いの成長につなげるためには、「発し方」と「受け入れ方」それぞれである程度のスキルが必要です。そこで、まず「発し方」から見ていくことにしましょう。

相手に対してフィードバックをするときに意識してほしいのは、「S・B・I」の三つがすべてそろっていることです。「S」は「Situation (状況)」、「B」は「Behavior (行動)」、「I」は「Impact (影響)」の頭文字をとったものです。

つまり、適切なフィードバックとは、たとえば「あなた（フィードバックの相手）が、あのときに（状況）、こういう質問をしたことで（行動）、議論がこういう方向に変わった（影響）」というふうに三つの要素が盛り込まれていることが肝心だ、ということです。

たとえば、「状況 (S)」がなければ、「このときの」と特定化できないので、その人の性格分類になってしまう可能性があります。そうなるフィードバックの目的からそれてしまいます。

また、リーダーシップとは行動や発言として表現されるものですから、どの「行動 (B)」かを伝えることは必須です。さらに、リーダーシップとは、「他者に影響を与えること」ですから、「影響 (I)」について言及しなければ、その人のリーダーシップについてフィードバックしたことにはなりません。

つまり、「S」も、「B」も「I」もそろっていなければ、適切なフィードバックには成り得ないのです。

### 【引用】

1,2,3 『高校生からのリーダーシップ入門』日向野幹也著

## グループワーク目的シート

発表と質問・フィードバック、ディスカッションでめざすこと（目的）は  
全員がグループ内で、

- (1) 発表を時間内に終えること。
- (2) 発表者の発表内容を理解すること。
- (3) (2)について発表者を含む全員の理解がいつそう深まるように、  
質問・フィードバックをすること。
- (4) ディスカッションを通じて、それぞれがリーダーシップに関する理解を深めること。
- (5) (4)について、グループメンバーが互いに協力し合うこと。

以上

### 【3時限】グループワーク

— 班	受験番号	氏 名

科目	学部	学科	分野・コース
個人ワーク②	ビジネス学部	ビジネス学科	—
受験番号	氏名		採点

設問1 3時限のグループワークにおいて他のメンバーが行った質問やフィードバックでよいと思ったものを以下のSBIフィードバックの観点で書いてください。(3つまで)

	対象者 例) Cさん	どのような場面で S : Situation	どのような行動が B : Behavior	グループの学びにどのような よいインパクトを与えたか I : Impact
1				
2				
3				

